



かわい



<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/> (HP 随時更新中!)

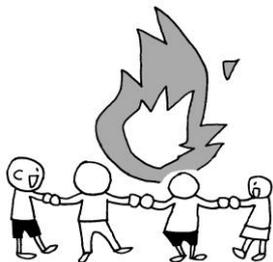
「主体性」を身に付けるために

校長 窪田 剛久

新年、明けましておめでとうございます。サッカーワールドカップでの日本の活躍に沸いた昨年度末、2022年「今年の漢字」が「戦」に決まりました。他国の武力による侵攻、近隣国の相次ぐミサイル発射などにより「戦」争を意識した年であったことが理由の一つとして挙げられます。また円安・物価高・電力不足など、生活の中で起きている身近な「戦」いも、この漢字が選ばれた理由となりました。新型コロナウイルスとの「戦」いも、今なお続いています。反面、良い意味での「戦」もありました。

先ほども触れたサッカーワールドカップや北京冬季五輪での熱「戦」には多くの関心が集まりました。野球界では、村上宗隆選手の日本人最多本塁打や、佐々木朗希投手の最年少完全試合、大谷翔平選手の2桁勝利2桁本塁打など、記録への挑「戦」も注目を浴びました。今年はどうのような年になるのでしょうか。

2023年は卯年ですが、本来の干支でいうと癸卯（みずのと・う）。卯年であること以外にも込められた意味があります。「癸（みずのと）」は物事の終わりと始まりを意味する他、「揆（はかる）」という文字の一部であることから「種子が計ることができるほどの大きさになり、春の間近でつぼみが花開く直前である」という意味だと言われています。「卯」はもともと「茂」という字が由来といわれ「春の訪れを感じる」という意味、また「卯」という字の形が「門が開いている様子」を連想させることから「冬の門が開き、飛び出る」という意味があるとされています。この2つの組み合わせである癸卯は、「これまでの努力が花開き、実り始めること」といった縁起のよさを表しているそうです。



コロナ禍の厳しい状況が続く中ではありますが、令和4年度本校ではほとんどの行事を予定通り開催させていただいています。それまで2年間、世間の情報を集め、可能な限りの感染対策を講じた上での開催です。「新しい生活様式」という名の行動制限は残っているものの、それまで川井小で努力し積み重ねてきた伝統を、少しずつではありますが再開できたのは大きな成果と言えるのではないかと思います。子ども達はそれぞれの行事の中で生き生きと活動し、主体的に行動する姿を見せてくれました。主体的と言えれば以前、このようなエピソードを聞いたことがあります。

『大正時代。親戚の不幸で上京することになり、行きは夜行の三等列車に乗ることになった。その三等列車で当時小学生だった彼女はキャラメルを食べてその包み紙を平気で床に捨てた。三等の列車の中はゴミだらけで、それが彼女には当たり前に感じられた。その時、父は黙っていた。だが、帰りは〈ツバメ号〉の展望車に乗せてもらった。戦前の超豪華列車。そこでも彼女はキャラメルを食べ、キャラメルを自分のポケットにしまった。それを見て父が叱った。「お前は、周囲がゴミだらけだと平気でゴミを捨てる。ゴミ一つ落ちていない豪華列車の中だとゴミを捨てられない。お前は環境の奴隷になっている。主体性がない。お前にそんな主体性のない人間になってほしくない。」彼女は、「父が私にゴミを捨ててはいけないと説教しなかったところが偉い」と言っていた。』

「周りが正しいことをするから自分も正しいことをする。」初めはそれでいいと思います。でもいずれは「周りが間違ったことをしていても自分は正しいことをする。」といった主体性を身に付けてほしい。そういった願いがこのエピソードには込められています。

情勢にもよりますが、今年は川井小の特色である体験的な活動をさらに取り戻し、子ども達が活躍できる場を増やしていきたいと思っています。「戦」が昨年度の漢字となり、どのように動いていくか予想のしにくい世界となりましたが、そうした中でも本当の意味での主体性を多くの子ども達が身に付け、正しい行動を選択できるように、個別最適な学びを探求していきます。これまでの努力が花開き、大きな実りとなるよう、川井小の挑「戦」を見守っていただきたいと思います。今年もよろしくお願ひいたします。